様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 22 年 4 月 9 日現在

研究種目： 基盤研究（C）
研究期間： 2007～2010
課題番号： １９５２０４１９
研究課題名（和文） 再構成と機能範疇の出現に関する共時的･通時的研究
研究課題名（英文） A Synchronic and Diachronic Study of Restructuring and the Rise of Functional Categories

研究代表者 田中 智之（TANAKA TOMOYUKI）
名古屋大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号： ２０２４１７３９

研究代表者の専門分野：英語学
科研費の分科・細目：言語学・英語学
キーワード：再構成、機能範疇、不定詞節、小節

１．研究計画の概要

英語史における再構成、特に不定詞節と小節に見られる再構成の分布について調査を行い、英語史における再構成の歴史的変遷を明らかにする。そして、生成文法理論の枠組みに基づいて、英語史のある時期になぜ再構成が消失したのかについて、不定詞節と小節における機能範疇の出現という観点から説明を試みる。

２．研究の進捗状況

英語史における再構成、具体的には不定詞節からのかき混ぜ、および小節における主語と述語の倒置に関して、古英語から初期近代英語までの電子コーパスを用いて調査を行った。その結果、不定詞節からのかき混ぜは古英語から 16 世紀まで観察され、小節における主語と述語の倒置は古英語から初期近代英語まで観察されることが分かった。まず、不定詞節からのかき混ぜについては、当初考えていたよりも遅くまで観察されることが判明し、さらに ECM 不定詞節とコントロール不定詞節の区別が重要であり、ECM 不定詞節の場合にはかき混ぜではなく目的語転移の可能性が高いと思われる。この結果に基づいて、コントロール不定詞節からのかき混ぜが 16 世紀中に消失したのは、機能範疇 T が確立したことにより不定詞主語の PRO が義務的に現れるようになったためであると結論付けた。理論的な説明としては、A 移動としてのかき混ぜが不定詞主語 PRO を越えて適用できないこと、また PRO が義務的となったために vP がフェイズとなり、それを越えるかき混ぜが適用できないことが考えられる。次に、小節における主語と述語の倒置については、古英語から初期近代英語までは小節述語の左方移動により倒置が生じることが可能であったために、現代英語よりも広く倒置が観察され、さらに小節述語全体の左方移動とその主要部のみの左方移動の 2 種類の左方移動があることが分かった。そして、2 種類の左方移動が消失したのは、機能範疇 Pred(ication)が 18 世紀中に確立したことにより、小節がフェイズとなったためであると考えられる。

３．現在までの達成度

①おおむね順調に進展している。

電子コーパスを用いた独自の調査により、英語史における再構成の分布を明らかにすることができ、生成文法の枠組みに基づいて、機能範疇の出現という観点から説明する可能性を提示することができた。

４．今後の研究の推進方策

再構成の歴史的変遷にとって重要である、機能範疇 T と Pred の出現の動機付けについて考察し、上記の理論的説明をさらに強化するとともに、これまでの研究の全体的総括を行う。

５． 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計 5 件）

Tomoyuki Tanaka “The Rise of Lexical Subjects in English Infinitives,” *The Journal of Comparative Germanic Linguistics* 10, 25-67.（2007 年） 査読有

Tomoyuki Tanaka and Azusa Yokogoshi "The Rise of a Functional Category in Small Clauses," *Studia Linguistica* 64. (2010年) 査読有

〔学会発表〕(計　1　件)
「一致、叙述、小節における機能範疇の出現」日本英文学会第81回大会シンポジウム(2009年5月30日：東京大学)

〔図書〕(計　2　件)
Mutsumu Takikawa, Masae Kawatsu, and Tomoyuki Tanaka (eds.) *Ivy Never Sere: The Fiftieth Anniversary Publication of The Society of English Literature and Linguistics, Nagoya University*, 担当部分 "Scrambling from Infinitival Clauses: A Case Study of Restructuring in the History of English," 475-492. 音羽書房鶴見書店. (2009年)

Hirozo Nakano, Masayuki Ohkado, Tomoyuki Tanaka, Tomohiro Yanagi, and Azusa Yokogoshi (eds.) *Synchronic and Diachronic Approaches to the Study of Language: A Collection of Papers Dedicated to the Memory of Professor Masachiyo Amano*, 担当部分 "On the Structural Change of Bare Infinitive Complements in the History of English," 英潮社フェニックス. (2010年)